
ゴムパッキン　くらいしす！

能美夜澄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゴムパッキン くらいしす！

【Nコード】

N4683Z

【作者名】

能美夜澄

【あらすじ】

宇宙、それは果てしないロマン

宇宙、それは永遠の溶けない謎

この物語は宇宙の神秘に挑戦する若者を描いた短編である

（前書き）

この物語はフィクションです

地球は既にマルハダカにされている。

やれ神様のしわざだ、とか、妖怪のいたずらだなんて言われていた、災害や疫病なんかもあらかた理由を解析された。

まっしろだった世界地図も、今では総て埋められて、海洋を横断する怪獣や、宝島を書き加える余裕もない、そんな時代。

不思議なんてないさ、未知なんてないのさ。
ひねくれた若者がうつむきながらそんなことを謳う、ちょっとだけ狭苦しい世の中にも。

世界を広げるカギは、少し目線を上に向けたところに掛けられていて、対応するトビラはそこいらの物陰に、照れ臭そうに身を隠しながら、見つかるのを待っているはずだ。

煩わしい蝉のオーケストラも佳境に入り、夏も真っ盛りの某日。

近年の異常気象の例に漏れず、今年もビックイイベントを迎えようとしていた。

なんでも、つい先日発見され名付けられたばかりの彗星が、夜空に立派な尾を曳きながら、遠路はるばる我が地球の、極東の島国の近くまでやってきてくれるらしい。

彗星。ホウキ星。身も蓋もない言い方をすれば塵や氷の寄せ集まった宇宙のゴミ。

その存在は昔から吉事もしくは凶事の前触れとされており、多くの奇妙な信仰やら学説やらを生み出したそう。

宇宙からみたら微細な塵でも、地に足をつき、空を見上げるしかなかった太古のチキユージンにとっては理解を越えた現象のはずだ。灯りもなく闇夜を、季節のローテーションはあるだろうが、変わらない星明かりが煌々と照らしている中に、突然巨大な光のカタマリが現れたらビビる。

俺なら全力で逃げ出すね、地球の裏側までも。意味ないけど。

昔ハレー彗星が地球に近づいた時、日本人は自転車のチューブを買い占めたそう。

なんでも、『彗星の尾には毒が含まれていて吸ったら死んでしまう。だから通過するまではチューブにつめた空気のみでやり過ごせ』そんなことが新聞に書かれていたらしい。無知とはまことにオソロシヤ。

なんて、この度の彗星騒動に先駆けて仕入れた益体のない情報を反芻しつつ、俺は彗星の接近を待ちわびていた。

秘蔵のブタさん蚊取り線香の底力に期待を懸けてガラス窓を全開に、
買い置きをやっすいソーダ味の棒アイスをくわえながら生ぬるい夜
の空気に上半身をつっ込んで、窓のサッシに嵌まったゴムパッキン
の弾力を味わいつつ、まったり天体観測と洒落込んだのだ。
実にいいぷにぷに感だ。ゴムパッキンよ、結婚してくれ。

シツクな黒いカラーからはやんごとなき気品を感じる。

光を反射することをなく全てを受け入れる漆黒。ぷにぷにとした表
面に触れていると、深い慈愛に、ココロを暖かく包まれているよう
だ。

手入れを欠かすと、湿気の多い梅雨なんかはすぐにカビに覆われて
しまふあたりも庇護欲をくすぐられる。

なんとという素敵物質。愛してる。だがコイツは無機物で俺との間に
は越えようがない果てしなく高い壁がある。

俺は泣いた。舐めた。少しニガイ味がした。

最も日本に近付くとされる時刻が今夜22:45分。ただいま15
分前。

俺はこういう微妙な待ち時間が苦手だ。お世辞にも集中力があると
は、天地神明に誓い、断じて言えないがために、いつもチャンス
を逃してしまうのだ。

よく試験の前にある待機時間。やれエンピツ使えだとか持ち物を落
としたら拳手をしろだとかいう耳にタコができるほど聞いたオハナ
シを再び聞かされる。

そんな話を聞かされている間に、俺の緊張はは緩やかに減少してい

き、それに比例するように溜め込んだ知識は分解されていく。

いや、断じて俺が勉強していない訳ではないぞ？！

気づくと蝉の声は止んでいた。

先程まで生暖かかったはずの外気はどこかひやりとしているようで、俺は自然と肩をすぼめる。

さっきまでぶにぶにと弾力を返してくれていたゴムパッキンも、心なしか身を硬くしているようだ。

大丈夫だ、お前は俺が必ず守る。

そう胸に誓い、空を見上げると

ハスキーボイスの悲鳴とともに

キラキラと輝く紫色が眼前に迫っていた

緊急事態ながらもああこの声なんか好みだな、なんて思いながら

全力で窓を閉めた。ガラスにヒビが入ったのは気のせいに違いない。割れてませんようにホントお願いします。

ぐちゃり、と窓ガラスに衝突し付着した紫色のスライム（ギンギラギンに発光中）は、ヒビ割れた部分から室内に侵入した。謎のハスキーな呻き声も断続的に聞こえる。

俺は仰け反って狂乱している。ヤバイコレ宇宙からの侵略者だ地球は狙われてしまったんだ人生終わったな父さん母さん俺は今宇宙人に喰われて生涯を閉じてしまいます嫁さん（ゴムパッキン）を紹介できないままに先立つ不幸をお許しください。

そんな風に暴走しながら俺の嫁を見つめると
嫁さんは紫色のヌメヌメに寝取られてしまっていました。

そこで俺の意識は途切れた。

目を覚まし後に始まるのは

地球人と宇宙人。有機物と無機物。人間とゴムパッキン。

そんなつまらない分類なんて一瞬で消し飛んでしまうような空前絶後のストーリー！。

ヘタレな俺には心の準備がたつぷりと必要なようなので、深い、深い眠りに就く。

その途中、俺が恋をしたハスキーボイスで、おやすみ、なんて言う声が聞こえた気がした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4683z/>

ゴムパッキン　くらいしす！

2011年12月15日22時49分発行